



幼児期の環境づくりは大切であり、子育て支援課の設置は期待が大きい

希薄になり、子育てに對する考えが重たいため、社会全体で軽くしなければならず、また、近年、学校において発達の問題が増えており、一番大切な乳幼児の時期に指導していくことが必要で、それらを目的・役割としている。

②効果が現れるには時間がかかり、行政としての環境づくりも大切だが、家庭での環境づくりも必要で、お父さん・お母さんの学習の機会等、専門の方の指導を多く取り入れ、安心できるようにしたい。

③児童手当の支給などの子どもにかかわる分野は子育て支援課に集約し、教育委員会と関連する部分は、今回の組織機構見

直しの2つ目の大きな柱である横の連携に配慮し、諸規定を整備して子育て支援課ができた意義を最大限示したい。

### 新たなまちづくり計画策定に伴う町長の考えは

西山輝和議員

新たなまちづくり計画の策定に際し、「新たなまちづくり計画策定委員会」という新しい組織を立ち上げ、議論が積み重ねられていくと思うが、現在、どのような議論が行われているのか。また、10年後、あるいは町長在任期間の4年後に、清水町をどのようにしたいと町長は考えているのか。そのような考えを事前に「新たなまちづくり計画策定委員会」に伝え、計画策定に向けた議論が行われているのか伺う。

高薄町長

住民からの公募及び町から委嘱の28名の策定委員と、職員25名の総勢53

名で計画づくりを開始し、第4期総合計画評価資料等で勉強を重ね、現在、議論に入っており、最初に私の思いを伝え、更に4部会のなかで担当課長から課題等を説明し、その後、私と意見交換している。10年先をどのようにしたいかは、住んでいる人が暮らしやすいまちづくりが必要で、一人ひとりが思いやりを持ちながらともに暮らし、町民間の格差をなくすようにしなければならず、産業面では、ある程度の働く場がなければならぬ。

### 組織機構改革と人事制度の導入

西山輝和議員

まちづくり計画の目標

達成に向けて、役場の組織機構体制の充実が欠くことのできない重要なものであり、現在、検討されている組織機構は、新たなまちづくり計画に連動した体制として検討されているのか。また、職場内で公平で適正な評価のもと、職員同士が切磋琢磨できる状況でなければならず、職員研修の充実はもとより、人事考課や自己申告などの制度導入を見据えながら組織機構が検討されているのか伺う。

高薄町長

横の連携を強めるために大課制にしたが、課が大きくなるとコミュニケーションが取れないため、大課制を見直したなかで、課の増加を最小限にしておく必要がある。今後は権限移譲等も想定しながら、組織機構は柔軟に考えなければならず、住民の視点に立って検討しなければならない。

職員研修は、本年度、自治大学校1名、市町村アカデミー1名、道市町村職員研修センター6名の

計8名が能力開発等を含めた研修を受講しており、来年度もそれらの研修に派遣したい。人事考課制度は、昨年度から検討委員会でも検討した結果、能力開発や人材育成型の運用しやすいシンプルな清水町方式を取り入れることにしており、自己申告制度は、導入に向けて来年度、制度設計をして平成23年度からの本格実施を目指している。

### 特色ある清水町農業を守り育てるための施策は

安田 薫議員

農政が大きく変わり、中身が伝わってこないなかで、来年度の営農計画を立てる作業は進めなくてはならない。今こそ本町の農業の特色を發揮し、農協や商工会、協力でできる諸団体との連携で強力な町づくりをしなくてはならないが、次の施策について伺う。

①意欲ある担い手の確



新鮮な地元産野菜などを販売し大好評だった直売広場「ぶらあっとほーむ」

保・育成と営農支援機能の強化。

②野菜づくり推奨と共に特色ある農産物直売所の設置。

③農商工・プラス農業への参画者への連携等。

④食の安全・安心確保とバイオマス対策の推進。

高薄町長

①本町農業を維持・発展する意味からも絶対に必要なことで、事業の実施については、農協等の関係機関と連携を密にし、構築していきたい。  
②従前からアスパラガス、白菜等の振興を行っており、本年度、新たににんにく栽培の助成に取り組んだが、来年度も振興策は